

活動名：民報杯ビアンコーネカップ U-10

日程：平成27年10月3日（土）～4日（日）

会場：福島空港公園 緑のスポーツ広場

参加：E4クラス選抜（リフティング上位者）12名

帯同：1日目 小松・大森・八巻コーチ、貝和スタッフ

2日目 小松・渡邊コーチ・貝和スタッフ

対戦相手：

予選リーグ

VS FCブリーオ須賀川 1：0 ○

VS 会津サントス 3：3 △

VS 野原グランディオス 0：6 ●

3位リーグ

VS 棚倉FC 1：2 ●

VS 福島ユナイテッド 1：3 ●

17位決定戦

VS 大槻FC 5：1 ○

結果：17位（24チーム中）

民報杯ビアンコーネカップU-10に帯同しましたので、報告します。

今回は、E4クラスのリフティング回数上位者12名を選抜して、大会に参加しました。

1日目は、小松コーチが指揮をとり好成績だったので、その流れに乗っかろうと試みましたが、成績はご覧のとおりですが、成績だけでは、はかりしれないものを得た大会でした。

朝一のミーティングで伝えたこと。大きく分けると「ロングボール主体のカウンター攻撃」「相手のドリブルに簡単に飛び込まない」「相手チームよりも多くシュートを打つ」の3つだけ。この3つのことを実際の試合で表現するために、やらなきゃいけないことが沢山あるということを選手たちが気付いてくれたら最高だと思い試合に臨みました。3位リーグですが、初戦は再三チャンスを作るも得点することが出来ない。相手ゴール前までボールを運ぶもシュートが打てずに…といった試合でした。2試合目は、たびたび、トップチームの選手にサッカー教室を開いてJ3福島ユナイテッドの下部組織でした。ゴールを決めた時の選手全員の笑顔が最高でした。チームが1つになった瞬間でした。これまでの悔しさ、苦しさを一瞬で忘れさせてくれるだけの力があるんですね。そのあとも、相手の攻撃をギリギリのところを凌ぎ、数少ないチャンスから攻撃を繰り返すも試合終了のホイッスル。このとき、私の脳裏に浮かんだ言葉。それは…故・デットマール・クラマー氏の「タイムアップの笛は、次の試合へのキックオフの笛である」で

す。順位決定戦に向け、気持ちを切り替え、自分たちのプレーを貫く。結果、沢山のゴールが生まれ、沢山の笑顔の中、タイムアップ。そんな歓喜の輪の中で、一人だけ、浮かない表情の選手がいました。このチームをここまで引張ってきた選手です。最終戦、2ゴールを奪い、あと1点でハットトリックというところで味方選手がPA内で倒され、PKを獲得。みんなからPKを譲られました。みんなが彼にあと1点取って欲しいと強く願い、試合中もある選手が、「○○にボールを集めよう」みたいなことを言っていました。責任が強い彼ですから、相当なプレッシャーだったでしょう。そして彼が力強く蹴ったボール。ボール1個分左にそれてしまい、惜しくもハットトリックを逃してしまいました。私は、彼がプレッシャーに負けたと思いません。なぜなら、彼のキックに迷いはありませんでしたから。“サッカーの神様の気まぐれ”でしょう。みんなに申し訳ない気持ちで、いっぱいのは、この経験を糧にもっと練習して上手くなると言っていました。その他にも参加した選手一人ひとりに物語がありますが、全部を書いていると渡邊コラムになってしまうので、一つだけ紹介させていただきました。

県内外の強豪チームとの真剣勝負は、選手たちにとっても良い経験になったと思います。選手たちには、この経験をただ単に大会に参加して試合をやったという経験だけで終わらせて欲しくないです。スキルの向上に終わりが無いので、更なるスキルアップ(例えば、ハイプレッシャーのなかでいかに自分のスキルを発揮できるかなど)をはかっていきましょう。

最後に、ピアンコーネ福島さん、ご招待いただきありがとうございます。次回も引き続き、よろしくお願いします。また、E4クラスのご父兄の皆様、二日間、選手たちへの熱い応援ありがとうございます！引き続き応援をよろしくお願いします。

～ 帯同するたびに、黒くなる肌、そして、白くなる頭

肌が白くなるその前になんとか... 優勝を

本日もSNSで頑張ります！

(S・・・染めない)

(N・・・塗らない)

(S・・・精神)

コーチ：渡邊





